

小学校での英語学習経験が中学入学後の 英語学習に及ぼす影響について

青木 基容子・井 長 洋

本研究は、小学校での、①英語学習の量による中学入学後の英語学力の差、②英語学習の質による中学入学後の英語学力の差、③英語学習の質による中学入学後の英語学習に対する意識の差、を明らかにするために行ったものである。①については、小学校1年と5年で英語学習を開始した2つのグループの学力テストをt検定で比較し、両者に有意な差がないことが確認された。小学校で英語の授業を受けた期間によって、中学入学後の英語学力に差はないということが示唆された。②については、「指導者が外国人教師か英語科教師か」、「書く活動があったか」、「帯時間での英語学習があったか」の3つの要因を取り上げ、それによる中学入学後の英語学力の差を分散分析で調べた。3要因の交互作用は確認されなかったが、1学期中間テストにおいてのみ「帯時間」の主効果が確認された。入学当初は帯時間の有無による学力差が確認できるが、3か月後にはその差は無くなることが示唆された。③については②の3要因ごとに学習者の意識を分析し、「指導者が外国人教師か英語科教師か」、「書く活動があったか」、「帯時間での英語学習があったか」によって、英語に対する苦手意識やそれが始まった時期、難しいと感じる技能、小学校英語と中学校英語に対する意識の違いがあることが分かった。これらの結果を踏まえて、生徒たちが小学校英語から中学校英語へとスムーズに移行できるよう、指導を工夫する必要がある。

1. はじめに

2011(平成23)年より、小学校第5、第6学年において、年間35単位時間の「外国語活動」が必修化され、現在中学校に在籍しているほぼすべての生徒が、小学校時代に外国語に関する学習を経験している。しかし、生徒が経験してきた外国語学習の内容は様々であると思われる。ベネッセ教育総合研究所(2010)の調査によると、「外国語(英語)活動」で行う活動として、学級担任の90%以上が「あいさつ」、「ゲーム」、「歌やチャンツ」などの音声活動を挙げているが、「英語の文字や文を読む」活動を挙げている学級担任も約30%、「英語の文字や文を書く」活動を挙げている学級担任は10~20%いることが分かっている。この調査は「外国語活動」が必修化される前のものではあるが、その後も状況は大きく変わっているとは考えられず、依然として生徒が経験している英語学習の質は均一でないことが推測できる。また、現在の学習指導要領では「外国語活動」は第5学年から年間35時間の必修であるが、2010年度の時点で低学年から年間16時間以上の「外国語活動」実施している小学校は約20%、中学年からだと約40%ある(ベネッセ教育総合研究所、

2010)など、経験した外国語学習の量もさまざまであると考えられる。

中学校外国語科では、小学校外国語活動において培われた「コミュニケーション能力の素地」の上に、コミュニケーション能力の基礎を育成することが目標として示されている(文部科学省、2008)。小学校と中学校の連携を考える上で、生徒たちの中学入学以前の英語学習経験の実態を把握し、それらが入学後の英語学習にどのような影響を与えるのかを理解することは、非常に重要であろう。

2. 研究の目的

本研究は、中学校1年生の中学入学以前の英語学習経験の実態を把握し、それらが入学後の英語学習にどのような影響を与えているのかを明らかにすることを目的として行う。具体的にはまず、以下の点を明らかにしていく。

- ① 小学校での英語学習の量によって中学入学後の英語学力に差があるのか
- ② 小学校での英語学習の質によって中学入学後の英語学力に差があるのか
- ③ 小学校での英語学習の質によって中学入学後の

英語学習に対する意識に差があるのか

そして、その結果を踏まえて、今後の中学1年時の英語指導において、注意すべき点について考える。これによって、小学校と中学校の英語学習のよりスムーズな連携への一助になることを期待する。

3. 中学入学以前の英語学習経験

まず現在中学1年生に在籍している生徒が、小学校でどのような英語学習を経験しているかについて調査することとした。調査対象者は、2015（平成27）年4月に広島大学附属中学校に入学した138名（男子72名、女子66名）である。入学して約2週間後の4月中旬に、「小学校では何年生から英語の学習があったか（また、週に何回行われていたか）」、「小学校の英語の授業ではどんなことをしたか（①あいさつ、②歌、③会話ゲーム、④本の読み聞かせ、⑤単語カード練習、⑦算数・理科・社会の授業、⑧その他、より選択）」、「誰が英語の授業をしていたか（①外国人教師、②外国人教師と担任、③英語科教師、④英語科教師と担任、⑤担任、より選択）」、「英語の単語や文を授業で読んだか」、「英語の単語や文を授業で書いたか」、「帯時間で英語の学習をしたか（また、どんなことをしていたか）」を、質問紙を用いて調査した。以下にその結果を示す。

3.1 英語学習が始まった学年

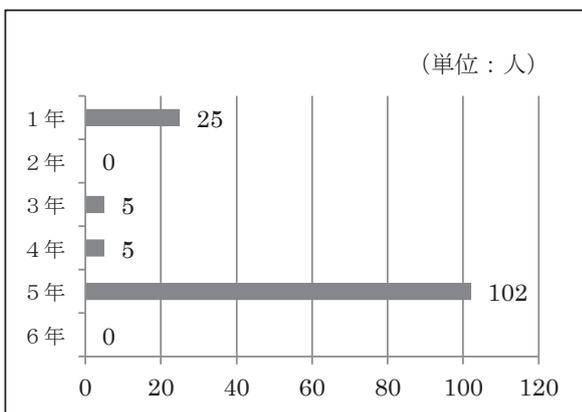


図1. 小学校での英語授業が開始した学年

図1は、「小学校では何年生から英語の授業があったか」という問いに対する回答をまとめたものである。小学校での英語学習は、学習指導要領で「外国語活動」が必修とされている小学校5年生から英語の授業が始まったと多くの生徒が回答している。小学校1年生から始まったと答える生徒も約2割弱いた。週当たりの授業回数は、週1回と回答し

た生徒が85名、週2回が40名で、週3回が3名、週5回が1名であった。回数に関しては、帯時間（1回10分～15分を何日かに分けて実施し、複数回合わせて1単位時間とカウントするもの）で実施されているものも、生徒は週当たりの授業回数としてカウントしている可能性もあるため、ここでは考えないこととし、英語学習の開始学年を重要な要素としてとりあげることとした。小学校3年生、または4年生で英語学習を開始した生徒はサンプル数が少ないため除外し、本研究では、英語学習を小学校1年生で開始したグループと、小学校5年生で開始したグループの比較をもって、小学校での英語学習の量による違いを検討することとした。

3.2 小学校での英語授業の内容

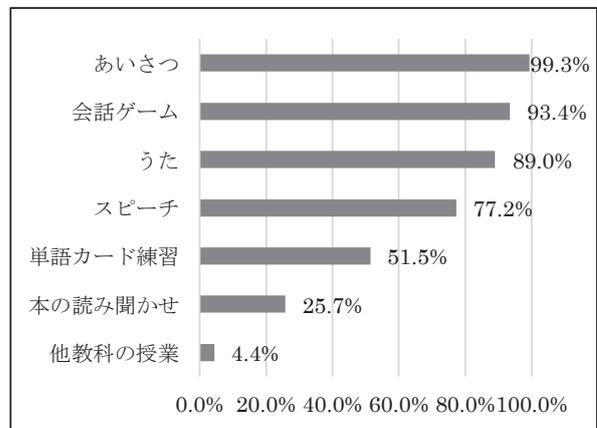


図2. 小学校での英語授業の内容（※複数回答あり）

図2は、「小学校の英語の授業ではどんなことをしたか」に対する回答をまとめたものである（複数回答あり）。生徒の多くが、「あいさつ」、「会話ゲーム」、「うた」、「スピーチ」といった、音声を中心とした活動を行ってきたことがわかる。また、「その他」の内容として、「カードゲーム」、「劇」、「クイズ」、「劇」、「コント」、「ダンス」、「読書」、「ビデオを見る」といった活動が挙げられていた。「単語カード練習」や「本の読み聞かせ」の項目において、行った生徒とそうでない生徒の数に差が出てきているが、それほど大きな差であると考えられず、ほとんどの生徒は音声面を中心とした活動をおこなっているため、レベル差はあるにせよ、生徒間にそれほど大きな差があるとは考えられない。よって本研究では、授業の内容による影響については取り上げないこととした。

3.3 小学校の英語授業の指導者

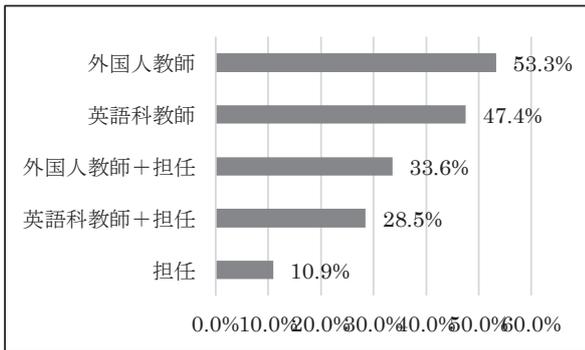


図3. 小学校英語の指導者（※複数回答あり）

図3は、「だれが英語の授業をしていたか」という問いに対する回答である。138名のうち、110名は「外国人教師」または「外国人教師と担任」と回答しており、多くの生徒が外国人教師との授業を経験してきたようである。28名は外国人教師による授業を経験していないが、そのかわり「英語科教師」または「英語科教師と担任」と回答していた。「担任」と答えた生徒も15名いたが、全て複数回答の1つとして選ばれたものであり、外国人教師や英語科教師がいない時に、1単位時間または帯時間を担当していたものと考えられる。本研究では、指導者が「外国人教師」（「外国人教師と担任」も含む）か、それとも「英語科教師」（「英語科教師と担任」も含む）かによる違いも調査することとした。

3.4 文字を読む活動の有無

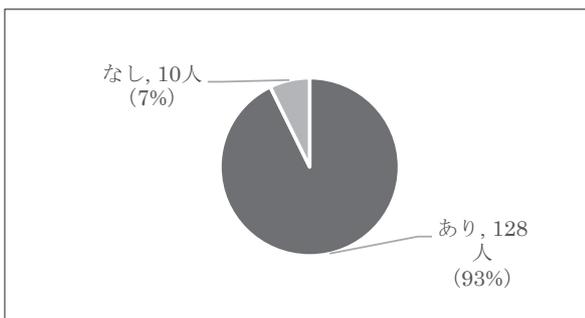


図4. 文字を読む活動の有無

図4は、「英語の単語や文を授業で読んだか」という問いに対する回答をまとめたものである。レベルの差はあると考えられるが、ほとんどの生徒が小学校時代に文字を読む活動を経験していることが分かる。よって、本研究では、文字を読む活動の経験の有無は取り上げないこととした。

3.5 文字を書く活動の有無

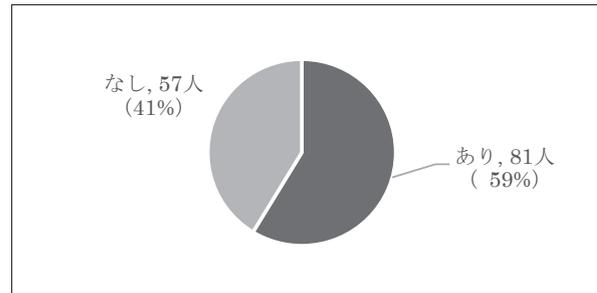


図5. 文字を書く活動の有無

図5は「英語の単語や文を授業で書いたか」という問いに対する回答をまとめたものである。小学校の英語授業での文字を書く活動の有無は、「あり（81人、59%）」、「なし（57人、41%）」に分かれた。もちろん、「あり」と答えた生徒が、どの程度の書く活動を経験しているのかはわからないが、書く活動の有無による影響の差は調べてみる必要があると考えた。

3.6 帯時間での英語学習の有無

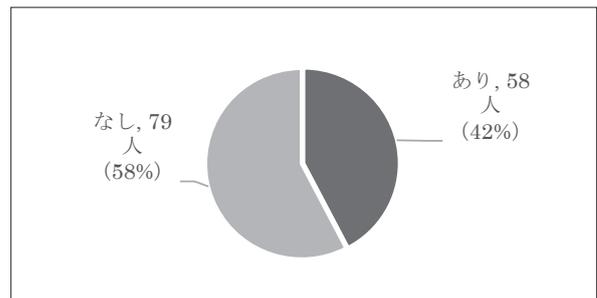


図6. 帯時間での英語学習の有無

図6は「帯時間で英語の学習をしたか」という問いに対する回答をまとめたものである。「帯時間（モジュール時間）」とは、1回10分～15分程度の時間を、児童が登校後、1時間目が始まる前の時間や、昼休み後の5時間目が始まる前の時間に確保し、計算ドリルや漢字ドリル、読書の時間として活用するものである。週のうち、比較的融通を利かせながら時間を確保することができ、繰り返し定期的に学べるという利点があると言われる。帯時間での英語学習を経験している生徒は約4割程度であった。その内容の多くは単語練習で、カードを使ったカルタのような活動や、提示された単語を読むといったものであった。また、基礎英語を使った学習をしたり、歌を歌ったと回答した生徒もいた。

文部科学省も現在モジュール指導用のICT教材の開発を推進しており、今後この割合は増えていくであろう。この活動経験の有無による影響も、本

研究で調査することとした。

4 調査 1

4.1 リサーチクエスト

小学校における英語学習の量と小学校における英語学習の質の、中学校での英語学力への影響を調べるため、以下のようなリサーチクエストを設定した。

RQ1：小学校1年生から英語学習を開始したグループ（以下、「1G」と）、小学校5年生から英語学習を開始したグループ（以下、「5G」）の間に、中学校での英語学力における差はあるのか。

RQ2：「指導者が外国人教師か英語科教師か」、「文字を書く活動があったか」、「帯時間での英語学習があったか」によって、中学校での英語学力に差はあるのか。

4.2 分析の方法

RQ1に関しては、1G ($n=25$) と5G ($n=102$) の中学1年時の定期テストの平均点の差を、 t 検定によって求めた。定期テストは5月中旬に実施した1学期中間テスト（以後「①中間」）、7月初旬に実施した1学期期末テスト（以後「①期末」）、10月下旬に実施した2学期中間テスト（以後「②中間」）、12月初旬に実施した2学期期末テスト（以後「②期末」）の素点（100点満点）とした。いずれも「ONE WORLD English Course 1」（教育出版）、「Sunshine English Course 1」（開隆堂）、「基礎英語1」（NHK出版）、「チャックで英単語 Basic」（三省堂）を出題範囲としており、割合はおおよそ4：2：3：1である。また、「動機づけ」も学力の構成要素の重要な一部であると考え、1Gと5Gの「英語に対する動機づけ」の差も調べた。入学後約7か月が経過した11月に、英語に対する「好き・嫌い」（以下、「動機づけ」）を質問紙により、5件法（5：とても好き、4：まあ好き、3：どちらとも言えない、2：あまり好きではない、1：好きではない）で調査した。定期テストと同様、1Gと5Gの平均点の差を、 t 検定によって求めた。

RQ2に関しては、指導者が外国人教師か英語科教師か、「文字を書く活動があったか」、「帯時間での英語学習があったか」の3要因による、上記定期テストおよび「動機づけ」の差を、分散分析を用いて調べた。

4.3 結果

4.3.1 記述統計

表1 定期テストと「動機づけ」質問紙の記述統計量

テスト	n	M	SD	Min	Max
①中間	138	80.37	14.33	17	100
①期末	138	69.94	19.69	15	99
②中間	136	67.56	20.94	5	99
②期末	137	81.20	14.50	30	100
動機づけ	136	3.52	1.23	1	5

表1は各テストと「動機づけ」質問紙の記述統計である。数名の欠席者を除き、①中間は138名、①期末は138名、②中間は136名、②期末は137名、動機づけは136名のデータを得た。

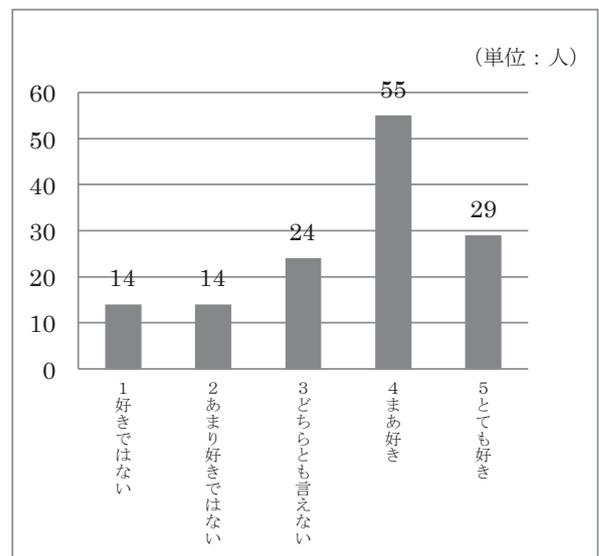


図7. 「動機づけ」質問紙の回答

図8は、参考として「動機づけ」の項目ごとの回答人数をグラフにまとめたものである。全体の6割程度が英語に対して肯定的に感じており、2割程度が否定的に感じていることが分かる。

4.3.2 t 検定

表2. グループごとの記述統計量

①中間					
Group	n	M	SD	Min	Max
1G	25	83.44	12.59	59	99
5G	102	79.85	14.92	17	100
①期末					
Group	n	M	SD	Min	Max
1G	25	70.60	21.34	29	97

5 G	102	70.24	19.75	15	99
②中間					
Group	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>Min</i>	<i>Max</i>
1 G	24	62.46	22.36	17	96
5 G	102	68.75	21.25	5	99
②期末					
Group	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>Min</i>	<i>Max</i>
1 G	25	81.48	14.75	47	100
5 G	102	81.64	14.90	30	100
動機づけ					
Group	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>Min</i>	<i>Max</i>
1 G	25	3.36	1.29	1	5
5 G	101	3.53	1.25	1	5

表2は1Gと5Gのグループごとの記述統計である。それぞれのテストにおいて、1Gと5Gの平均点の差が統計的に有意かを確かめるために、有意水準5%で両側検定のt検定を行ったところ、①中間： $t(125) = 1.11, p = .27$ 、①期末： $t(125) = 0.08, p = .94$ 、②中間： $t(124) = 1.29, p = .20$ 、②期末： $t(125) = 0.04, p = .96$ 、動機づけ： $t(124) = 0.62, p = .53$ であり、いずれにおいても1Gと5Gの平均点の間に有意差は見られなかった。

4.3.3 分散分析

「指導者（外国人教師／英語科教師）」、「書く活動（あり／なし）」、「帯時間（あり／なし）」の3要因分散分析を、それぞれのテスト（①中間、①期末、②中間、②期末）と「動機づけ」で行った。

表3. 要因ごとの記述統計

①中間					
指導者	書く活動	帯時間	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
外国人	なし	なし	20	79.30	12.74
外国人	なし	あり	24	82.17	12.17
外国人	あり	なし	45	79.07	14.29
外国人	あり	あり	19	83.00	9.94
英語科	なし	なし	5	63.80	28.77
英語科	なし	あり	7	84.14	12.82
英語科	あり	なし	8	81.38	22.87
英語科	あり	あり	7	87.14	8.15
①期末					
指導者	書く活動	帯時間	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
外国人	なし	なし	20	71.95	18.83
外国人	なし	あり	24	73.67	19.42
外国人	あり	なし	45	68.33	20.77
外国人	あり	あり	19	71.74	16.46

英語科	なし	なし	5	53.20	21.58
英語科	なし	あり	7	72.00	18.12
英語科	あり	なし	8	72.25	24.59
英語科	あり	あり	7	69.57	14.91
②中間					
指導者	書く活動	帯時間	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
外国人	なし	なし	20	68.55	19.74
外国人	なし	あり	24	74.29	20.99
外国人	あり	なし	45	65.87	19.82
外国人	あり	あり	19	62.63	19.19
英語科	なし	なし	5	51.00	33.50
英語科	なし	あり	7	72.43	21.28
英語科	あり	なし	7	71.71	25.86
英語科	あり	あり	7	67.00	20.83
②期末					
指導者	書く活動	帯時間	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
外国人	なし	なし	20	82.30	13.12
外国人	なし	あり	24	85.54	12.57
外国人	あり	なし	45	78.69	15.31
外国人	あり	あり	19	81.42	11.47
英語科	なし	なし	5	69.00	27.52
英語科	なし	あり	7	87.29	10.93
英語科	あり	なし	8	83.25	18.01
英語科	あり	あり	7	77.57	12.35
動機づけ					
指導者	書く活動	帯時間	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
外国人	なし	なし	19	3.32	1.16
外国人	なし	あり	24	3.50	1.38
外国人	あり	なし	45	3.38	1.27
外国人	あり	あり	19	3.63	1.16
英語科	なし	なし	5	4.00	1.41
英語科	なし	あり	7	3.71	1.25
英語科	あり	なし	8	3.88	1.25
英語科	あり	あり	7	3.57	0.98

表4. 分散分析表

①中間		
	<i>F</i>	<i>p</i>
指導者	0.32	.57
書く活動	2.86	.09
帯時間	6.91	.01*
指導者×書く活動	2.55	.11
指導者×帯時間	2.38	.13
書く活動×帯時間	1.16	.28
指導者×書く活動×帯時間	1.56	.21
①期末		
	<i>F</i>	<i>p</i>

指導者	1.17	.28
書く活動	0.41	.52
帯時間	1.51	.22
指導者×書く活動	1.65	.20
指導者×帯時間	0.41	.52
書く活動×帯時間	1.32	.25
指導者×書く活動×帯時間	1.80	.18
②中間	<i>F</i>	<i>p</i>
指導者	0.24	.62
書く活動	0.00	.96
帯時間	1.06	.31
指導者×書く活動	2.52	.12
指導者×帯時間	0.58	.45
書く活動×帯時間	3.54	.06
指導者×書く活動×帯時間	0.84	.36
②期末	<i>F</i>	<i>p</i>
指導者	0.72	.40
書く活動	0.06	.80
帯時間	2.13	.15
指導者×書く活動	0.93	.34
指導者×帯時間	0.27	.60
書く活動×帯時間	3.69	.06
指導者×書く活動×帯時間	3.39	.07
動機づけ	<i>F</i>	<i>p</i>
指導者	1.46	.23
書く活動	0.00	.95
帯時間	0.02	.89
指導者×書く活動	0.17	.68
指導者×帯時間	0.86	.35
書く活動×帯時間	0.00	.96
指導者×書く活動×帯時間	0.01	.94

*<.05

表4に示すように、いずれのテスト及び「動機づけ」においても、5%水準で交互作用が有意ではなかった。主効果は①中間の「帯時間」のみ、5%水準で有意であり、「帯時間：あり」が「帯時間：なし」より、平均点が高かった。

5 調査2

5.1 リサーチクエスト

調査2では、学力テストでは見えない英語学習に対する意識が、小学校時代に経験した英語学習の質に応じて変わるのかを調査した。以下のリサーチクエストを設定して調査を行った。

RQ3：「指導者が外国人教師か英語科教師か」, 「文

字を書く活動があったか」, 「帯時間での英語学習があったか」によって中学校での英語学習に対する意識がどう違うのか。

5.2 調査の方法

12月中旬に質問紙を用いて、(1)「英語は得意科目か、苦手科目か(苦手科目と感ずるようになったのはいつからか)」, (2)「中学校の英語学習で、どの技能が難しいと感ずるか(①聴く技能, ②話す技能, ③読む技能, ④書く技能, ⑤特になし, より選択。※複数選択可)」, (3)「小学校英語はどんな時に役立つと思うか(自由記述)」, (4)「中学校英語と小学校英語で違うところはどんなところか(自由記述)」という質問に回答させた。それによって得られた解答を、「指導者(外国人教師/英語科教師)」, 「書く活動(あり/なし)」, 「帯時間(あり/なし)」の3要因ごとに比較した。3要因の交互作用があることも考えられるが、「調査1」での結果もふまえ、各要因を別々に分析することにした。

5.3 結果

要因ごとに比較した結果を以下に示す。(1)「英語は得意科目か、苦手科目か」, (2)「中学校の英語学習で、どの技能が難しいと感ずるか」については、回答した人数の数を、(3)「小学校英語はどんな時に役立つと思うか」, (4)「中学校英語と小学校英語で違うところはどんなところか」については、回答を著者が判断して分類し、その分類ごとの回答数を示した(実際の回答は「資料1」参照)。

5.3.1 指導者(外国人教師/英語科教師)

表5. 英語は得意科目か、苦手科目か(単位:人)

指導者	外国人教師	英語科教師
得意	51 (47.2%)	17 (60.7%)
苦手	55 (50.9%)	10 (35.7%)
無回答	2 (1.0%)	1 (1.4%)
合計	108	28

「苦手科目と感ずるようになったのはいつからか」

- ・「指導者：外国人教師」・・・55名
 - 小学校から・・・17名(30.9%)
 - 中学校入学後・・・34名(61.8%)
 - 不明・・・4名(7.3%)
- ・「指導者：英語科教師」・・・10名
 - 小学校から・・・1名(10.0%)
 - 中学校入学後・・・8名(80.0%)
 - 不明・・・1名(10.0%)

表5は「英語は得意科目か、苦手科目か」に対する回答を、指導者別にまとめたものである。また、下に、「苦手科目」と答えた生徒の、「苦手科目と感ずるようになったのはいつからか」という問いに対する回答も示してある。サンプル数が少ないため単純な比較はできないが、「外国人教師」のグループは、英語を「苦手科目」として捉えている割合が高く、それが小学校から続いている割合が高い。

表6. 中学校の英語学習で、どの技能が難しいと感じるか
(単位：人)

指導者	外国人教師	英語科教師
聴く技能	66 (61.1%)	27 (96.4%)
話す技能	49 (45.5%)	19 (67.9%)
読む技能	20 (18.5%)	8 (28.6%)
書く技能	59 (54.6%)	15 (53.6%)
特になし	2 (1.9%)	0 (0.0%)
全体人数	108	28

表6は「中学校の英語学習で、どの技能が難しいと感じるか」という問いに対する回答を指導者別にまとめたものである。「英語科教師」のグループの、「聴く技能」や「話す技能」を難しいと回答している割合が、比較的高いことがわかる。

表7. 小学校英語はどんな時に役立っていると思うか
(数字は回答数)

指導者	外国人教師	英語科教師
基本的な表現、あいさつ、単語に関わるもの	33 (31.1%)	12 (46.2%)
スピーキング、発音、イントネーションに関わるもの	12 (11.3%)	4 (15.4%)
リスニングに関わるもの	4 (3.8%)	1 (3.8%)
文法に関わるもの	3 (2.8%)	0 (0.0%)
雰囲気、慣れに関わるもの	9 (8.5%)	2 (7.7%)
その他	16 (15.1%)	1 (3.8%)
役に立っていない	29 (27.4%)	6 (23.1%)
回答計	106	26

表7は、「小学校英語はどんな時に役立っていると思うか」という問いに対する自由記述を、分類して回答数をまとめたものである。これを見ると、「英語科教師」のグループは、基本的な表現、あいさつ、単語などにおいて、好意的な回答をしている割合が高いことがわかる。

表8. 中学校英語と小学校英語で違うところはどこか
(数字は回答数)

指導者	外国人教師	英語科教師
文字に関わるもの	36 (33.3%)	12 (44.4%)
難易度に関わるもの	12 (11.1%)	3 (11.1%)
内容の量に関わるもの	6 (5.6%)	1 (3.7%)
文、文法に関わるもの	24 (22.2%)	8 (29.6%)
内容の詳しさに関わるもの	7 (6.5%)	1 (3.7%)
実用性に関わるもの	17 (15.7%)	1 (3.7%)
テストに関わるもの	3 (2.8%)	1 (3.7%)
その他	2 (1.9%)	0 (0.0%)
なし	1 (0.9%)	0 (0.0%)
回答合計	108	27

表8は、「中学校英語と小学校英語で違うところはどこか」という問いに対する自由記述を、分類して回答数をまとめたものである。「英語科教師」のグループは、文字を書いたり読んだりといった内容に言及していた割合が高かった。また、「外国人教師」のグループは、習った英語を実生活で使える、といった「実用性」に関して言及していた割合が比較的高かった。

以下、同様に要因ごとに結果を示す。

5.3.2 書く活動（あり／なし）

表9. 英語は得意科目か、苦手科目か（単位：人）

指導者	外国人教師	英語科教師
得意	37 (46.3%)	31 (55.4%)
苦手	41 (51.3%)	24 (42.9%)
無回答	2 (2.5%)	1 (1.8%)
合計	80	56

「苦手科目と感ずるようになったのはいつからか」

- ・「書く活動：あり」・・・41名
 - 小学校から・・・11名 (26.8%)
 - 中学校入学後・・・26名 (63.4%)
 - 不明・・・4名 (9.8%)
- ・「書く活動：なし」・・・24名
 - 小学校から・・・7名 (29.2%)
 - 中学校入学後・・・16名 (66.7%)
 - 不明・・・1名 (4.2%)

表9に示すように、書く活動（あり／なし）に関しては、「英語は得意科目か、苦手科目か」という問いに対する回答の割合は、それほど大きな差はなかったと思える。「苦手科目と感ずるようになったのはいつからか」という問いの答えも、両者がほぼ同じような回答の割合を示している。

表10. 中学校の英語学習で、どの技能が難しいと感じるか
(単位：人)

書く活動	あり	なし
聴く技能	49 (61.3%)	44 (78.6%)
話す技能	39 (48.8%)	29 (51.8%)
読む技能	16 (20.0%)	12 (21.4%)
書く技能	45 (56.3%)	29 (51.8%)
特になし	0 (0.0%)	2 (3.6%)
全体人数	80	56

表10を見ると、「書く活動：なし」のグループの、「聴く技能」を難しいと答えている割合が、比較的高いことがわかる。その他の技能に関しては、両者はほぼ同じような回答の割合を示している。

表11. 小学校英語はどんな時に役立っていると思うか
(数字は回答数)

書く活動	あり	なし
基本的な表現、あいさつ、単語に関わるもの	27 (35.1%)	18 (32.7%)
スピーキング、発音、イントネーションに関わるもの	10 (13.0%)	6 (10.9%)
リスニングに関わるもの	2 (2.6%)	3 (5.5%)
文法に関わるもの	0 (0.0%)	3 (5.5%)
雰囲気、英語への慣れに関わるもの	7 (9.1%)	4 (7.3%)
その他	14 (18.2%)	3 (5.5%)
役に立っていない	17 (22.1%)	18 (32.7%)
回答計	77	55

表11を見ると、「小学校英語はどんな時に役立っていると思うか」という問いに対しては、「書く活動：あり／なし」の両者はほぼ同じような回答の割合を示している。

表12. 中学校英語と小学校英語で違うところはどこか
(数字は回答数)

書く活動	あり	なし
文字に関わるもの	14 (17.7%)	34 (60.7%)
難易度に関わるもの	13 (16.5%)	2 (3.6%)
内容の量に関わるもの	3 (3.8%)	4 (7.1%)
文、文法に関わるもの	23 (29.1%)	9 (16.1%)
内容の詳しさに関わるもの	6 (7.6%)	2 (3.6%)
実用性に関わるもの	16 (20.3%)	2 (3.6%)
テストに関わるもの	2 (2.5%)	2 (3.6%)
その他	1 (1.3%)	1 (1.8%)
なし	1 (1.3%)	0 (0.0%)
回答計	79	56

表12を見ると、「書く活動：なし」のグループは、小学校と中学校の英語学習の違いとして、文字の読み書きに関するものに言及していた割合が圧倒的に高かった。「書く活動：あり」のグループは、「難易度」、「文、文法」、「実用性」に関して言及していた割合も、比較的高かった。

5.3.3 帯時間（あり／なし）

表13. 英語は得意科目か、苦手科目か（単位：人）

帯時間	あり	なし
得意	31 (53.4%)	37 (47.4%)
苦手	26 (44.8%)	39 (50.0%)
無回答	1 (1.7%)	2 (2.6%)
合計	58	78

「苦手科目と感じるようになったのはいつからか」

- ・「帯活動：あり」・・・26名
 - 小学校から・・・4名 (15.4%)
 - 中学校入学後・・・20名 (76.9%)
 - 不明・・・2名 (7.7%)
- ・「帯活動：なし」・・・39名
 - 小学校から・・・14名 (35.9%)
 - 中学校入学後・・・22名 (56.4%)
 - 不明・・・3名 (7.7%)

表13をみると、「帯時間：あり／なし」の、両者の「得意科目」、「苦手科目」の回答の割合はほぼ同じであったが、苦手科目と感じるようになった時期を見ると、「帯時間：あり」のグループの多くが中学校入学後であったのに対して、「帯時間：なし」の1/3以上が「小学校から」と回答していることがわかる。

表14. 中学校の英語学習で、どの技能が難しいと感じるか
(単位：人)

帯時間	あり	なし
聴く技能	42 (72.4%)	51 (65.4%)
話す技能	30 (51.7%)	38 (48.7%)
読む技能	10 (17.2%)	18 (23.1%)
書く技能	30 (51.7%)	44 (56.4%)
特になし	1 (1.7%)	1 (1.3%)
全体人数	58	78

表14から、「帯時間：あり／なし」の両者が難しいと感じる技能の割合に、それほど大きな差はないことがわかる。

表15. 小学校英語はどんな時に役立っていると思うか
(数字は回答数)

帯時間	あり	なし
基本的な表現, あいさつ, 単語に関わるもの	19 (34.5%)	26 (33.8%)
スピーキング, 発音, イン トネーションに関わるもの	6 (10.9%)	10 (13.0%)
リスニングに関わるもの	2 (3.6%)	3 (3.9%)
文法に関わるもの	3 (5.5%)	0 (0.0%)
雰囲気, 英語への慣れに 関わるもの	4 (7.3%)	7 (9.1%)
その他	6 (10.9%)	11 (14.3%)
役に立っていない	15 (27.3%)	20 (26.0%)
回答計	55	77

表15が示すように、「小学校英語はどんな時に役立っていると思うか」という質問に対しても、「帯時間：あり／なし」の両者の回答の割合に、大きな差は見られなかった。

表16. 中学校英語と小学校英語で違うところはどんなところか
(数字は回答数)

帯時間	あり	なし
文字に関わるもの	23 (40.4%)	25 (32.1%)
難易度に関わるもの	3 (5.3%)	12 (15.4%)
内容の量に関わるもの	3 (5.3%)	4 (5.1%)
文, 文法に関わるもの	13 (22.8%)	19 (24.4%)
内容の詳しさに関わるもの	6 (10.5%)	2 (2.6%)
実用性に関わるもの	5 (8.8%)	13 (16.7%)
テストに関わるもの	2 (3.5%)	2 (2.6%)
その他	2 (3.5%)	0 (0.0%)
なし	0 (0.0%)	1 (1.3%)
回答計	57	78

表16から、「中学校英語と小学校英語で違うところはどんなところか」という質問に対する回答として、難易度に関わるものを挙げているものが、「帯時間：なし」のグループの方がやや多くなっていることがわかる。

6 考察

調査1, 調査2で得られた結果を元に, ①小学校での英語学習の量によって中学入学後の英語学力に差があるのか, ②小学校での英語学習の質によって中学入学後の英語学力に差があるのか, ③小学校での英語学習の質によって中学入学後の英語学習に対する意識に差があるのか, について考察する。

6.1 小学校での英語学習の量によって中学入学後の英語学力に差があるのか,

調査1では, 「①中間」, 「①期末」, 「②中間」, 「②期末」, そして「動機づけ」のいずれにおいても, 1Gと5Gの平均点の間に有意な差は見られなかった。したがって, 小学校で英語の授業を受けた期間が長いか短いかによって, 中学入学後の英語学力に差はないと言える。つまり, 小学校での英語の授業がいつ始まったのかについて, 中学校における指導の際には, それほど考慮する必要はないと考えられる。しかし, 本研究では塾や英会話学校など, 小学校以外の影響を考慮していない。今回調査対象とした生徒138名のうち, 57名(41.9%)が中学入学以前に塾や英会話学校などで英語の指導を受けており, それが中学校での英語学力に何らかの影響を与えていることも考えられる。この点も今後調べてみる必要があるだろう。

6.2 小学校での英語学習の質によって中学入学後の英語学力に差があるのか

英語学習経験について尋ねた質問紙の回答の結果から, 小学校での英語学習の質として「指導者(外国人教師/英語科教師)」, 「書く活動(あり/なし)」, 「帯時間(あり/なし)」の3つの要因を取り上げ, それによる中学入学後の英語学力の差を分析した。分散分析の結果から, ①中間において「帯時間」の主効果が確認され, 「帯時間：あり」のグループが「帯時間：なし」のグループより, 平均点が高かった。小学校の帯時間を利用した英語学習では, ほとんどの生徒が単語の学習をしたと回答している。ここで身についた単語の知識が, 入学してから約1か月半後に実施された①中間で有利に働いたのではないかと考えられる。しかしその約1か月半後に実施された①期末ではそのアドバンテージも消え, 「帯時間」の「あり/なし」の差はなくなったと推測できる。したがって, 小学校での英語学習の質の違いは, 中学入学後の英語学力にそれほど影響しないと言える。よって, 中学入学後の指導においても, それほど神経質になる必要はないと考えられる。しかし, ここでも①と同様, 塾や英会話学校での指導の影響を考慮していない。今後, この点も調査していく必要があるだろう。

6.3 小学校での英語学習の質によって中学入学後の英語学習に対する意識に差があるのか

調査2では「指導者(外国人教師/英語科教師)」, 「書く活動(あり/なし)」, 「帯時間(あり/なし)」の3要因ごとに, 生徒の英語学習に対する意識を比

較・分析した。ここでは要因ごとに考察を加える。

6.3.1 指導者（外国人教師／英語科教師）

「英語は得意科目か、苦手科目か（苦手科目と感じるようになったのはいつからか）」に対する回答をみると、「外国人教師」のグループは、英語を「苦手科目」として捉えている割合が高く、それが小学校から続いている割合が高かった。外国人教師による指導の場合、日本語を介さずに行っているため、児童が説明を理解できずに消化不良のまま終わっている場合があるのではないかと考えられる。入学以前に苦手意識を持っている生徒も、中学での英語学習を新たなスタートとして、苦手意識を払拭できるような取り組みが必要である。

「中学校の英語学習で、どの技能が難しいと感じるか」という問いに対して、「英語科教師」のグループは「聴く技能」や「話す技能」を難しいと回答している割合が、比較的高かった。「外国人教師」のグループは、外国人教師が話す英語を普段から耳にし、また外国人教師と普段からやりとりをすることで、「聴く」や「話す」といった技能に慣れ親しんでいることから、苦手意識が低いのだと思われる。「英語科教師」のグループのこのような苦手意識を考慮に入れて、指導内容を考える必要があるだろう。

「小学校英語はどんな時に役立っていると思うか」という問いに対して、「英語科教師」のグループは、基本的な表現、あいさつ、単語などにおいて、好意的な回答をしている割合が高い。「外国人教師」のグループも、基本的な表現、あいさつ、単語などを学習しているはずである。小学校での学習内容と中学校での学習内容の連携を上手にしていく必要がある。

「中学校英語と小学校英語で違うところはどんなところか」という問いに対して、「英語科教師」のグループは、文字を書いたり読んだりといった内容に言及していた割合が高かった。また、「外国人教師」のグループは、習った英語を実生活で使えるといった「実用性」に関して言及していた割合が比較的高かった。このような意識は、中学校での英語学習の「動機づけ」にもなり得るが、逆にここから苦手意識が発生してしまうこともある。小学校の学習からのスムーズな移行を図れるよう配慮したい。

6.3.2 書く活動（あり／なし）

「英語は得意科目か、苦手科目か（苦手科目と感じるようになったのはいつからか）」という問いに対する回答の割合は、それほど大きな差はなかつ

た。「苦手科目と感じるようになったのはいつからか」という問いの答えも、両者がほぼ同じような回答の割合を示している。書く活動の「あり／なし」による影響は、この点に関してはそれほど考慮する必要はないであろう。

「中学校の英語学習で、どの技能が難しいと感じるか」という問いに対して、「書く活動：なし」のグループは「聴く技能」を難しいと答えている割合が、比較的高かった。原因は不明だが、指導の際に留意すべき点であるかもしれない。その他の技能に関しては、両者はほぼ同じような回答の割合を示していた。「書く技能」に対する意識の違いが予想されたが、それほど大きな差はみられなかった。小学校での書く活動の経験は、中学校での「書く技能」に対する意識にそれほど影響はないと考える。

「小学校英語はどんな時に役立っていると思うか」という問いに対しては、「書く活動：あり／なし」の両者はほぼ同じような回答の割合を示しており、指導においてそれほど留意する点はないと考えられる。

「中学校英語と小学校英語で違うところはどんなところか」という問いに対して、「書く活動：なし」のグループは、文字の読み書きに関するものに言及していた割合が当然のことながら圧倒的に高かった。「書く活動」を体験していない生徒たちが、中学校に入って始めて取り組む「文字の読み書き」に戸惑わないように、教師側は配慮する必要がある。「書く活動：あり」のグループは、「難易度」、「文法」、「実用性」に関して言及していた割合が比較的高かった。これは、小学校で触れていた英語が、比較的短い単位（単語、句レベル）であったことを表しているであろう。中学校では、小学校と比べて圧倒的に触れる英語の量が多くなり、文構造も複雑になる。小学校では比較的容易に習得できていた生徒も、中学校では躓く場合も多い。そういった点に留意して、中学校の英語にスムーズに適應できるよう配慮する必要があるだろう。

6.3.3 帯時間（あり／なし）

「英語は得意科目か、苦手科目か（苦手科目と感じるようになったのはいつからか）」という問いに対して、「帯時間：あり／なし」両者の「得意科目」、「苦手科目」の回答の割合はほぼ同じであった。しかし、苦手科目と感じるようになった時期を見ると、「帯時間：あり」のグループの多くが中学校入学後であったのに対して、「帯時間：なし」の1/3以上が「小学校から」と回答していることがわかる。小学校から英語が苦手になった生徒の割合が、

「帯時間：なし」において高い理由はよく分からなかった。1単位45分、週1時間の授業では、授業の長さや頻度の点で、内容の定着が不十分となり、それが苦手意識につながってしまったのかもしれない。英語学力のテストでは、①中間では有意な差がついていたものの、①期末ではその差は縮まっていたので、中学入学後の学習で、それらの苦手意識は払拭できると考える。

「中学校の英語学習で、どの技能が難しいと感じるか」という問いに対しては、「帯時間：あり／なし」の両者が難しいと感じる技能の割合に、それほど大きな差はなかった。指導において、技能の面でそれほど配慮する点はないと考える。

「小学校英語はどんな時に役立っていると思うか」という問いに対しても、「帯時間：あり／なし」の両者の回答の割合に、大きな差は見られなかった。

「中学校英語と小学校英語で違うところはどんなところか」という問いに対する回答として、難易度に関わるものを挙げているものが、「帯時間：なし」のグループの方がやや多くなっていることがわかった。「帯時間：あり」のグループは、そのほとんどが帯時間の学習において単語練習を行っており、中学で学習する単語のいくつかも、小学校ですでに習得していると思われる。そのため語彙の面でアドバンテージがあり、「帯時間：なし」のグループとは「難易度」において異なる回答となったのであろう。英語学力の面では、入学3か月後のテストで「帯時間：ある／なし」両者の間に有意な差はみられなかったため、学力の差は次第に埋まると考えられる。「帯学習：なし」グループが、入門期に小学校とのギャップを感じて苦手意識を持たないように注意したい。

7. まとめ

本研究では、中学校1年生の中学入学以前の英語学習経験の実態を把握し、それらが入学後の英語学習にどのような影響を与えているのかを知るため、以下の3点を明らかにした。

①「小学校での英語学習の量によって中学入学後の英語学力に差があるのか」については、小学校で英語の授業を受けた期間が長いか短いかによって、中学入学後の英語学力に差はないということが示唆された。ただし、本研究では塾や英会話学校など、小学校以外の影響を考慮しておらず、今後はそれも含めた小学校での英語学習の量と、中学入学後の英語学力との関係を調べてみる必要があるだろう。

②「小学校での英語学習の質によって中学入学後

の英語学力に差があるのか」については、小学校での英語学習の質として「指導者（外国人教師／英語科教師）」、「書く活動（あり／なし）」、「帯時間（あり／なし）」の3つの要因を取り上げ、それによる中学入学後の英語学力の差を分析した。結果としては3要因の交互作用は確認されなかったが、「帯時間：あり」のグループが「帯時間：なし」のグループより、①中間の平均点が高かった。入学してから約1か月半後に実施された①中間では、小学校の英語学習の内容の影響が英語学力の結果に表れているが、入学約3か月後の①期末ではその影響はなくなっていることが示唆された。しかし、ここでも①と同様、塾や英会話学校での指導の影響を考慮していないため、今後、この点も調査していく必要がある。

③「小学校での英語学習の質によって中学入学後の英語学習に対する意識に差があるのか」に関しては、「指導者（外国人教師／英語科教師）」、「書く活動（あり／なし）」、「帯時間（あり／なし）」の3つの要因ごとに学習者の意識を分析し、(1)「指導者：外国人教師」のグループは、英語を「苦手科目」として捉えている割合が高いこと、また、それが小学校から続いている割合が高いこと、(2)「指導者：英語科教師」のグループは「聴く技能」や「話す技能」を難しいと回答している割合が比較的高いこと、(3)「指導者：英語科教師」のグループは、基本的な表現、あいさつ、単語などが中学でも役に立っていると考えている割合が高いこと、(4)「指導者：英語科教師」のグループは、小学校と中学校の違いとして、文字を書いたり読んだりといった内容を言及していた割合が高く、「指導者：外国人教師」のグループは、「実用性」に関して言及していた割合が比較的高いこと、(5)「書く活動：なし」のグループは「聴く技能」を難しいと答えている割合が比較的高いこと、「書く技能」に対する意識は「書く活動：ある／なし」にそれほど大きな差がないこと、(6)「書く活動：なし」のグループは、小学校と中学校との違いとして、文字の読み書きに関するものに言及していた割合が圧倒的に高いこと、「書く活動：あり」のグループは、「難易度」、「文法」、「実用性」に関して言及していた割合が比較的高いこと、(7)英語が苦手だと答えた生徒のうち、「帯時間：あり」のグループの多くが中学校入学後に英語が苦手になったのに対して、「帯時間：なし」の1/3以上が「小学校から」であったこと、(8)「帯時間：なし」のグループは、小学校と中学校の違いとして、「難易度」を挙げた割合が高いこと、などが分かった。これらの点を踏まえて、小学

校英語と中学校英語のスムーズな連携を図る必要がある。

本研究では、小学校時代の英語学習の経験が、中学校での英語学習にどのような影響を与えるのかを、英語学力、英語に対する意識の両面から分析した。そこから得られた示唆を、今後の指導に役立てていきたい。本研究ではいくつかの示唆が得られたが、今回の調査のサンプル数は非常に限定されていることは否定できない。また、塾や英会話学校等の影響等、考慮すべき要因もまだまだ残されている。今後、更なる研究が必要である。

[参考文献]

- 文部科学省, 『小学校学習指導要領』, 東京書籍, 2008.
- 文部科学省, 『中学校学習指導要領』, 東山書房, 2008.
- ベネッセ教育総合研究所, 『第2回小学校英語に関する基本調査(教員調査)2010年』, ベネッセコーポレーション, 2011.

資料1「調査2」質問紙の自由記述回答

「小学校英語はどんな時に役立っていると思うか」

※()内数字は、筆者の分類を示す(1:基本的な表現、あいさつ、単語に関わるもの、2:スピーキング、発音、イントネーションに関わるもの、3:リスニングに関わるもの、4:雰囲気、5:英語への慣れに関わるもの、6:その他、7:役に立っていない)

《指導者:外国人、書く活動:なし、帯活動:なし》

- ・I am ~や、You are ~や、自己紹介などの基本中の基本を知れた(1)
- ・少しの英単語がわかる(1)
- ・いいえ。(7)
- ・コミュニケーション(5)
- ・覚えなないといけない単語に、小学校の時に習った単語がよく出てくるので新しく覚える単語が少なくなる。(1)
- ・ALTの先生の話を理解するとき(小学校では英語のみで訳してもらえなかった)(3)
- ・役立っていない(7)
- ・役立っていない(7)
- ・雰囲気(5)
- ・あまり思わない(7)
- ・英語について(イントネーション)なんとなく知ることができた(2)
- ・発音したところが似ているとき(2)
- ・やったことを中学校でレベルアップした上書きされたので、特に役に立っていない(7)
- ・話すことを中心に行っているの、思っていることを英語であらわすときや発音などに役立っていると思います(2)
- ・単語(1)
- ・あまりない(7)
- ・単語や基本的な文(1)
- ・簡単なあいさつをするときや文章中の単語など(1)
- ・単語を書くとき(1)
- ・習う内容があいまいで、あまり自分的に役立っていないと思います(7)

《指導者:外国人、書く活動:なし、帯活動:あり》

- ・特に役に立っていない気がする…(7)
- ・規則も知らずになんとなく覚えた文のおかげで、今の授業で、理解が深まっている。文法を思い出すときの手助けにもなる。(4)
- ・あまりたっていない。(7)
- ・あまり思わない(7)
- ・あまり感じたことはありません(7)
- ・文法を初めて習ったときなど聞き覚えがあると覚えやすい。(4)
- ・とくにやくにたたない(7)
- ・わからない単語が出たとき思い出せる(1)
- ・英文を音で覚えるのに役立っていると思う(6)
- ・あいさつのときは「あ、これやったことある!」と思った(1)

- ・知識レベル。あまりない(7)
- ・英語を聞き取るとき(3)
- ・簡単な質問をするとき(1)
- ・小学校の時になんとなく聞いていることで、それを中学校になって習ったときに「こういう意味だったのか」と分かるとき(4)
- ・特に役立ってると思わない(7)
- ・特に思わない(7)
- ・疑問詞の文を読むとき(2)
- ・特にない(7)
- ・単語を学ぶとき(1)
- ・中学校に入って急に英語になれるより、小学校のころからなっていた方がやりやすい(5)
- ・英語に慣れ親しむことができた(←ゲームとか?)。動物や文房具など、様々な単語を学んだ。(5)
- ・人と英語で会話するときのコミュニケーション(1)
- ・日常会話の時(1)
- ・英語の存在が分かった(6)

《指導者:外国人、書く活動:あり、帯活動:なし》

- ・質問に答えるとき、小学校の時やったと思う時がある(1)
- ・大体の単語がわかる(日常生活)(1)
- ・中学校の英語の勉強(6)
- ・辞書をひくのがはやくなった。身の回りのことを開けるようになった(6)
- ・基本的な単語を覚えれた(1)
- ・外国人の先生だったので発音がよくなった(2)
- ・書くことはできなくても、聞いて、単語がわかる。(1)
- ・発音(2)
- ・自己紹介(1)
- ・中学校英語の学習の時(5)
- ・中学の最初あたりの授業(5)
- ・役立った覚えがありません(7)
- ・中学校に続いていると感じたとき(6)
- ・英語に慣れ親しむという意味で役に立ったと思います。なので、新しい単語や表現を習う時に役立っていると思います。(5)
- ・基本的な単語はわかる(1)
- ・おもわない(7)
- ・あまり役立ってはいない(7)
- ・楽しくやっていたので、耳とかで覚えていたので、外国人に話しかけられたりしたら、パッと答えられる。(1)
- ・あまり役立っていない(7)
- ・単語を言うとき(1)
- ・簡単な単語を話すとき(1)
- ・中学校でやった英語が覚えやすい(6)
- ・思わない(7)
- ・役立たない(7)
- ・役立っているとは思わない(7)
- ・なんのやくにもたっていない(7)
- ・ちょっとした日常会話文(1)
- ・英語を始める基本的なところで思い出す(1)
- ・先生が外国人だったので、聞くときに役立っています(3)
- ・海外で行動するとき(6)

- ・小学校で習った英語が中学で出てきたとき (1)
- ・英語を聞き取るとき (3)
- ・中学校の基礎 (6)
- ・特になし (7)
- ・特に役立っていない (7)
- ・あいさつができる (1)
- ・簡単な単語を覚えることができる (1)
- ・中学校の授業を受けるときの予備知識として (6)
- ・中学校で同じことを習ったとき (6)
- ・簡単なあいさつならできる。ある程度の単語の発音がわかる。(1)
- ・英語を学ぶための準備になる。ローマ字が書ける。(6)
- ・話すとき (2)
- ・リズムに乗って英語を読む (2)
- ・中学で活用する (6)

《指導者：外国人，書く活動：あり，帯活動：あり》

- ・話すとき (2)
- ・読み・聴き (6)
- ・様々な英文を授業で聞いたので，簡単な会話をする時に思い出す (2)
- ・いいえ。(7)
- ・()
- ・知っている単語が出てきたとき (1)
- ・十分役立っている (6)
- ・チャンクなどの単語の時にたまに前やったのが出てきて，記憶に定着しやすい (1)
- ・基本的な文・単語がわかる (1)
- ・基本の英単語を知れた。少しでも英語に慣れておくことで，中学校英語に入りやすくなった。(1)
- ・楽しくやる感じだったので(ゲームなど)英語を話すとき自然と笑顔になるとき (5)
- ・単語の暗記 (1)
- ・片言でも外国人と話すとき (2)
- ・はい (6)
- ・あまり役立っていない (7)
- ・中学校の勉強(たまに) (6)
- ・簡単な受け答えができる (2)
- ・ネイティブの人と話すのにあまり抵抗を感じずにできる(小学校の英語の先生がネイティブだったので)。頭に残っている英語や単語などがあつたときとか得する。(5)
- ・役立っていない (7)

《指導者：英語科，書く活動：なし，帯活動：なし》

- ・ふんいきで読もうとするときに参考になる (6)
- ・英語を話すとき (2)
- ・あまり真面目に受けていなかったため，あまりどうこう言えないけれど，発音などの感覚がつかめたかなと思います。(2)
- ・思わない (7)
- ・あいさつのときなど (1)

《指導者：英語科，書く活動：なし，帯活動：あり》

- ・特に役立っていない (7)

- ・日常でよく使う言葉や質問。中学に入ってから英単語の暗記。(1)
- ・聞き取り (3)
- ・簡単な日常会話をするとき (1)
- ・その単語が言えるようになった(スペルはわからなかった)(1)
- ・単語が覚えれたこと (1)

《指導者：英語科，書く活動：あり，帯活動：なし》

- ・人と話すとき，簡単なことを聞くことができる(How are you? など) (2)
- ・単語学習 (1)
- ・小学校で習った英語が中学で出てきたとき (1)
- ・あまり思わない (7)
- ・英検の面接官が外国人でもあまり緊張しなかった (5)
- ・役に立っていないと思う (7)
- ・少しの英語の単語を学んだので，見たときに2回目なのでわかりやすかった (1)
- ・日常会話のシチュエーション (5)

《指導者：英語科，書く活動：あり，帯活動：あり》

- ・特になし (7)
- ・特になし (7)
- ・英語を話すとき (2)
- ・英単語でわかるものがある (1)
- ・単語 (1)
- ・新しい単語でわかるものがある (1)
- ・単語を覚えるとき (1)
- ・英単語など基礎的なところを習ったので文を書くときに生かせるところ (1)
- ・英語に触れて楽しく学習する (6)

「中学校英語と小学校英語で違うところはどんなところか」

※()内数字は，筆者の分類を示す(1：文字に関わるもの，2：難易度に関わるもの，3：内容の量に関わるもの，4：文，文法に関わるもの，5：内容の詳しさに関わるもの，6：実用性に関わるもの，7：テストに関わるもの，8：その他)

《指導者：外国人，書く活動：なし，帯活動：なし》

- ・小学校は，生徒もよく英語を知らないのに，先生が単語しか話さなかった(日本人の先生)。中学は，英語を読むのも多く，「書く」ことが多くなった。(1)
- ・英語を書かない (1)
- ・小学校では，先生が話すだけだった。(1)
- ・読み書きを行わない。話すことが目的。(1)
- ・中学校では，実際に書いてみたりすることが多いところ (1)
- ・小学校では話す・聴くが主で，中学校からは書く・読むも加わったところ。(1)
- ・英語を書く (1)
- ・書いたり，読んだりするところ (1)
- ・書く，読むところ (1)

- ・書き取りがあること (1)
- ・文字が出てくる。文法が出てくる。(1)
- ・小学校は話したり聞くことを中心にしたけど、中学校はそれに読み書きを足している (1)
- ・小学校は日常会話をまるまる覚えていく。中学校は文法を覚えていく。(1)
- ・中学に入り、書くことを中心に行っているの、英語を話すことから書くことに変わったと思います。(1)
- ・難しさ (2)
- ・内容の量・分野 (目的) (3)
- ・単語の量 (3)
- ・具体的な文法を学ぶところ。ネイティブと話すところ。(4)
- ・小学校は単語をたくさんやった (3)
- ・小学校は遊び感覚でテストがないが、中学ではマジメな授業(?)でテストがあるところ。(7)

《指導者：外国人、書く活動：なし、帯活動：あり》

- ・文章を書くことや単語を覚えるところ。ルールを見つめるところ。(1)
- ・書き取りは、小学校ではしませんでした。(1)
- ・文を書いたりするところ。(1)
- ・中学校では書くという分野が増えた (1)
- ・小学校だと英語や英文をノートに書いたり、教科書を使ったりせず、先生や友達との会話が多かったですが中学校だとまた逆のような気がします。(1)
- ・書く・聴く活動があるところ (1)
- ・文章が書けるようになった。7文章がわかるようになった。単語が書けるようになった、楽しい。(1)
- ・英語を書く練習をしないこと (1)
- ・英文を書いたりするところ (1)
- ・話すだけだったのが書くようになった (1)
- ・英文をかいたり聴いたりするところ (1)
- ・書かないといけないうところ (1)
- ・中学校の方が実用的だと思う (6)
- ・小学校は、英単語は何と読むかしかやらなかったが、中学校では文法や単語覚えなどもあるところ (4)
- ・英文を作るかどうか (4)
- ・小学校では基本の話をするだけで、文法も単語のスペルも学ばなかった (4)
- ・英単語の数 (3)
- ・授業のクオリティ (5)
- ・自分で文をつくったりするところ (小学校のころは生物・天気などの単語を学ぶだけだった) (4)
- ・小学校は単語を中心的にしてゲームなどで学んでいった。中学校は文の作り方 and 単語だった。(4)
- ・小学校は基本的な単語と簡単な会話をすることで英語に親しむことが目的だけど、中学では文法や発音の仕方などもっと深く広く勉強している。(5)
- ・単語の綴りとか、文の決まりとかを具体的に学ぶところ (4)
- ・中学校では文法を小学校より詳しく掘り下げている。テストもなく日常会話で使う文ばかりやっていた (小学校英語)。(4)
- ・小学校英語は英語ではない (8)

《指導者：外国人、書く活動：あり、帯活動：なし》

- ・英語を書くことがあるところ (1)
- ・書くことが必要。アクセントや発音の違いを意識する。(1)
- ・中学では単語や文を書いているが、小学校では主に単語を話すことぐらいしかなかった (1)
- ・中学校は筆記が多い (1)
- ・書く勉強をするかしないか (1)
- ・文法がある。文章を書く。(1)
- ・書くことが増えた。読むことが増えた。(1)
- ・単語のむずかしさ (2)
- ・むずかしい (2)
- ・ちょっと難しくなった。実用的になった。(2)
- ・中学のほうが難しい (2)
- ・中学校英語の方がゆるくない (2)
- ・文が複雑になっている (2)
- ・小学校英語ではとにかく歌やコミュニケーションの授業でした。そこが一番の違いだと思います。(6)
- ・文の作り方も学ぶところ (4)
- ・文法などがくわしい (中学) (4)
- ・自分で聞いたことを英語で書き取ったり、問題を聞き取ってこたえるところ (6)
- ・小学校英語は中学校英語とは違って、絵→英語だった。中学校英語の方が発展している。(5)
- ・日本語を見て英語にやくすことが小学校ではなかった (6)
- ・英文をスムーズに使えるようになった (4)
- ・小学校では、単語のみの学習や形の変わらない分が多かったけど、中学校では主に文章をならうことが多くなったから。(4)
- ・単元別に分かれていて、基礎から学ぶところ (6)
- ・単語だけかどうか (4)
- ・実用的な英語が身につく (6)
- ・単語を覚えないうけなくなったところ (6)
- ・全て英語だったが、日本語の説明が加わった (6)
- ・文法や単語を習うところ (4)
- ・小学校の時は受験があったのであまり考えてなかったが、中学校では英語を視野に入れて考えられるようになった (6)
- ・中学校英語：文法をしっかりする。 小学校英語：単語を学んだり会話してみたりする。(4)
- ・基礎英語の速い英文を聞き取る場所 (2)
- ・文法があるところ (4)
- ・中学校はかたくなる (2)
- ・小学校のときは質問文1つだけど、その答えをいろいろ覚えていた。中学校は質問文をたくさん覚えるようになった。(5)
- ・中学校のほうが自由に話せる (6)
- ・単語を覚えたりしたこと (6)
- ・小学校は理解することより話させることで中学校は理解させてそこからの発展だから (6)
- ・文章の長さが長くなった。単語の数が多くなった。(2)
- ・小学校のときは英語に親しむ、中学校のときは英語を使えるようにする (6)
- ・小学校英語は単語中心だが中学校英語は文単位で扱う (4)
- ・テキストを使う量。語彙の量。(3)
- ・小学校は文を丸ごと覚えて真似するだけ。半分遊びのよう。

中学校では、文の組み立てや単語を根本から理解するみたい。(4)

- ・英文を覚える。教科書をたくさん使う。単語を覚える。テスト。文章な長さの違い。(4)
- ・文法を習う(4)
- ・小学校：楽しめばOK！中学校：「ハイテスト返すぞー」 「…」(7)
- ・ない(9)

《指導者：外国人，書く活動：あり，帯活動：あり》

- ・書くことが多い(1)
- ・書くところ(1)
- ・中学では、英単語を覚えたり、書いたりした。教科書を使う。(1)
- ・中学校の方が難しい。(2)
- ・むずかしくなった(2)
- ・過去形や現在進行形など、様々な英文の形が出てきたこと(4)
- ・小学校は遊びだが、中学校は本格的になっている。(5)
- ・小学校は単語を覚えて発音できればいいだけだったけど、中学は文法やリスニングなどさらに1歩2歩応用したものをしている(5)
- ・小学校では(遊び)のような感じで楽しくやっていた。中学校では「勉強」のイメージが強い。(7)
- ・文単位で組み立てられるようになったこと。応答ができるようになったこと。(4)
- ・小学校では学習というより耳馴れというか、遊びに近かったが、中学校では学習として、使えるよう英語を教えてくださいださっていると思う(6)
- ・英語のルールなども覚えるところ(4)
- ・小学校は単語だけで中学校は文を習った(4)
- ・くわしいかくわしくないか(5)
- ・単語をひたすら聞かされるのではなく、きちんと話し、聞き、書けるようにしてくれたこと(6)
- ・単語量(3)
- ・自分で発展させていろいろなパターンで英語が使えるところ。(6)
- ・小学校ではただ文を覚えたりするだけで単語でしか話せなかったが、中学校では文法や文の作り方をたくさん学ぶのでどんどん発展して自分の気持ちや考えなどを伝えることができるようになること。(6)
- ・全て(8)

《指導者：英語科，書く活動：なし，帯活動：なし》

- ・「書く」や「聞き取る」がある(1)
- ・スペルを書かなければならない(1)
- ・書いたりするところ(1)
- ・ノートをとるようになった。文法をするようになった。ゲーム形式じゃなくなった。(4)
- ・外国人と話すために中学では勉強しているから小学校の英語を知るだけのとはちがうと思う(6)

《指導者：英語科，書く活動：なし，帯活動：あり》

- ・単語を書いたり詳しく発音するところ。物語を聞いて、名

詞以外も覚えるところ(1)

- ・文法を考えずに音で覚えていた(小学校)(1)
- ・中学校は単語などを覚えて書かなければいけない(1)
- ・小学校は英語を読む、書くことが少ないが、中学は読む、書くばかりであること(1)
- ・中学校は小学校と違って、言えるだけでなく、書くこともあるし、単語だけでなく、文章もできるようにならないといけない。(1)
- ・難しさが違う(2)
- ・テストがあるところ(7)

《指導者：英語科，書く活動：あり，帯活動：なし》

- ・小学校のときは「書く」というよりも「話す」の方が多かったような気がする。小学校のときはそこまで英語が大切だとは思っていなかった。(1)
- ・中学はとても本格的(2)
- ・文が長い(2)
- ・文法をならうこと(4)
- ・中学校に入って、文法やスペルが厳しくなった(4)
- ・中学校英語は文法や動詞など細かいところまででするところ(4)
- ・単語だけでなく文法もあるところ(4)
- ・文法や品詞について習うか否か(4)

《指導者：英語科，書く活動：あり，帯活動：あり》

- ・小学校はコミュニケーションでよく使われる言葉だけを勉強していた(書く学習は×)(1)
- ・書くところ(1)
- ・スペルを覚えてしっかりかけるようになるところ(1)
- ・文法などくわしくならうところ(中学)(4)
- ・テキストがたくさんある(3)
- ・文単位(4)
- ・ディクテーションなど話すものが増えた(5)
- ・単語だけでなく、文全体で学習したり、その単語を覚えて書けるようにならないといけないこと(1)
- ・単語をたくさん覚えた(3)